



●金丸弘美

かなまる・ひろみ／食環境ジャーナリスト。1952年生まれ。執筆活動のほか食のアドバイザー事業を手がける。著書に「ゆらしい島のスローライフ」(学研)、「創造的な食育ワークショップ」(岩波書店)、「田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則」(NHK生活人新書)など多数。

## 16 大分県竹田市

# 「B&B&C長湯」 長湯温泉の

### 宿

泊施設ですっかり気に入ってしまっただのが、大分県竹田市直入町にある「B&B&C長湯」である。長湯温泉街のちよつとはずれの森の中にあり、コテージタイプで5棟の建物に6室がある。ベッドルーム、トイレ、キッチンに加えて、書斎にLANがあり、パソコンも使える。貸自転車、ランドリーもある。1棟ずつ離れていて、駐車してもゆとりがある。辺りの景観が美しい。緑が多くてくつろげる。

すぐ近くが本店にあたる100年の歴史の大丸旅館。旅館の温泉は無料。真下に川が流れ、一体に見える木造の旅館群は、なんとも風情がある。ちよつと高級にという人は旅館

で食事することもできる。旅館街には温泉施設が6軒あり、各旅館にも立ち寄り湯があるので、ほかの温泉も楽しめる。

B&Bとは「ベッドルームと朝食」の意味。イギリスのグリーンツリーズムは農家民泊スタイル。それが長湯に持ち込まれ、これまでの旅館の概念をがらりと変えた。Cはカルチャーのことで、図書館が併設され、そこで読書ができる。時々、室内楽などのイベントも開かれている。

宿泊料は1泊で3990円から8190円とリーズナブル。朝食は事務所の横のサロンで温泉粥、味噌汁、お新香、卵、フルーツ、またはトースト、プチパン、ジャム・バター、卵、フルーツを食べることができ。緑の多い景色のなかでの朝食は最上のものである。ちよつとした食事には、市内の商店街や直売所で食材を購入すれば、簡単な料理は自分たちで作れる。しかも車で30分も走れば熊本県、阿蘇の草原や山並みや温泉を満喫できるのである。

稼働率は90%というから人気のほどがわかる。平均は3泊。4割が福岡、残りは関西、関東から。世代的には50代から60代が大半だという。海外のグリーンツーリズムは、農

村の美しい風景づくりの政策と広域の連携、それにプライベートとくつろぎを重視した宿泊施設という総合的デザインにある。だからイギリスの農村に10億人の観光客が訪れる。そのコンセプトと考え方が竹田市にあったから驚いた。

ところが、目指したのは新しいタイプの湯治場だという。近くに炭酸泉のラムネ温泉があり、こちらと連動させている。建築家の藤森照信氏がデザインした温泉は、焦がした杉板と漆喰を使い、屋根は手でひねった銅版が使われている。屋根の上には松の木が植わっている。モダンでありながら、昔からあったよう。これからも永続する建築物ということで設計を依頼したという。

湯治場というと、昔は米や釜を持参し、炊事をしながら長期療養をしたと言われるが、それを気さくで、遠征して観光まで楽しめる、新しいスタイルにリニューアルさせた。ラムネ温泉はB&Bの宿泊客は100円。室内にはお茶が飲めるサロンと小さな美術館もある。ラムネ温泉には年間10万人が訪れている。

支配人の佐藤美樹さんは「ラムネ温泉と大丸旅館があつてのB&Bなんです」と話す。



【上】ラムネ温泉の外観  
【右】「B&B&C長湯」のコテージ